



平成25年度第6回定例記者会見開催のお知らせ

日時：平成25年10月16日（水）11:00～12:00

場所：豊橋技術科学大学事務局3F 大会議室

<記者会見項目予定>

- ①平成25年度博士課程教育リーディングプログラム採択決定！『超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成～最先端エレクトロニクスと脳科学メディカルフォトンクスで、脳を学び、脳に学ぶ～』（別紙1参照）
- ②豊橋技術科学大学一般公開講座「技術革新で日本経済は再生するか」（別紙2参照）
- ③目指せ！「食の6次産業化プロデューサー」！「日本農業を先導する東海地域の6次産業化推進人材育成」プログラムが内閣府の新資格制度「食の6次産業化プロデューサー」の『レベル3』に認証されました（別紙3参照）
- ④「異分野融合のプラットフォーム」を提供 The Irago Conference（アジア太平洋異分野融合研究国際会議2013）（別紙4参照）
- ⑤ASEANの大学の産学連携強化を通じ地域の経済成長持続と産業強化を支援－JICA技術協力プロジェクト「アセアン工学系高等教育ネットワーク（AUN/S EED-Net）フェーズ3」国別技術研修「産学連携促進手法研修」コースを受託実施－（別紙5参照）
- ⑥アジアに事業展開する企業とASEANの大学との連携の可能性を求めて－豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構 国際協力センター（ICCEED）第12回オープンフォーラムを11月に名古屋で開催－（別紙6参照）
- ⑦未来ビークルシティリサーチセンター講演会 サステイナブルな社会における未来ビークルシティ事業（別紙7参照）
- ⑧次回の定例記者会見の開催について（別紙8参照）

※主に①、②について、
記者会見を行います。

<本件連絡先>

総務課広報係 山内・堤・小島

TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



平成25年10月1日

平成25年度博士課程教育リーディングプログラム 採択決定！

『**超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成**
～最先端エレクトロニクスと脳科学メディカルフォトンクスで、脳を学び、脳に学ぶ～』

豊橋技術科学大学は、文部科学省「平成25年度博士課程教育リーディングプログラム(複合領域型・「情報」)」事業に申請し、採択されました。

本事業は、文部科学省が、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に適用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進することを目的に、平成23年度に創設されました。

今年度、全区分では62大学102事業の申請があり、15大学18事業が採択され、『複合領域型・「情報」』には11事業の応募があり、4事業が採択されました。

補助事業期間は、平成25年度から平成31年度までの7年間で予定しています。

【本事業の背景と狙い】

本プログラムは **人間の認知、理解、意思決定、行動を支える脳に対する科学的理解に立脚した情報技術を創り出す博士人材「ブレイン情報アーキテクト」の養成**を目的とするものです。現代社会に見られる高度情報化は、利便性の向上と同時に、システムの長大化・巨大化・複雑化、環境負荷の増大、情報格差の拡大といった様々な問題を生んでいます。本プログラムで養成するブレイン情報アーキテクトは、これらの問題を解決し、新しい情報化社会を切り開く人材として、本学の強みである **情報エレクトロニクスによって人間＝脳をより深く理解し、その理解に基づいてさらに情報技術を深化させる**ことが期待されます。

本プログラムでは、これまでに本学が蓄積してきた卓越した教育研究実績の上に、**脳科学を深化させる「技術を創る」、情報エレクトロニクス技術を駆使して「脳を学ぶ」、革新的情報技術を生み出すために「脳に学ぶ」という3つのミッション**を掲げ、それらをサイクルとして連動させた新しい博士課程教育プログラムを、浜松医科大学の脳情報メディカルフォトンクス技術の他、国内外の研究機関の脳情報科学研究基盤、また産業界の脳情報技術開発力を結集して構築します。

※本件の詳細については、10月16日(水)の本学定例記者会見にて説明させていただきます。

【本件に関する連絡先】

担当者：教務課長 松本 TEL 0532-44-6541

広報担当：総務課広報係 堤、小島 TEL 0532-44-6506

ブレイン情報アーキテクトの育成

情報エレクトロニクスを駆使して

脳を学ぶ

新しい革新的情報技術を

脳に学ぶ



脳科学を深化させる

技術を創る

強い先端情報エレクトロニクス技術を背景として持ち

- ・ 脳科学を深化させる新たな情報技術を生み出す
- ・ 情報技術を駆使して脳科学を深化させる
- ・ 脳に学んだ革新的情報技術を生み出す

豊橋技術科学大学一般公開講座

技術革新で日本経済は再生するか

我が国は、バブル崩壊以降、リーマンショック・東日本大震災・少子高齢化などの影響を受け、経済の低迷が長引いています。

このような状況から脱却すべく、日本経済の再生が強く期待されています。

本講座では、日本経済の再生に向けて、技術革新の重要性や豊橋技術科学大学のMOT（技術経営）の取り組みについて、分かりやすく解説します。

10/25

時間 午後6時30分～8時
会場 A2-101 講義室

技術革新と日本経済—地域経済を再生させよう

講師 山口 誠 (建築・都市システム学系 教授)

11/1

時間 午後6時30分～8時
会場 A2-101 講義室

技術革新による日本経済再生のための大学MOT教育の在り方

講師 福本昌宏 (機械工学系 教授)

11/8

時間 午後6時30分～8時
会場 A2-101 講義室

三遠南信地域の幹線道路整備と経済再生

講師 宮田 謙 (建築・都市システム学系 教授)

11/15

時間 午後6時30分～8時
会場 A2-101 講義室

MOT教育は技術革新と日本経済再生の起爆剤

講師 川合悦蔵 (客員教授)(新東工業株式会社 専務取締役)

11/22

時間 午後6時30分～8時
会場 A2-101 講義室

巨大地震の防災・復興と経済再生

講師 渋澤博幸 (建築・都市システム学系 准教授)

11/29

時間 午後6時30分～8時
会場 A2-101 講義室

金融工学を用いたベンチャーによる日本経済の再生

講師 藤原孝男 (建築・都市システム学系 教授)

受講料無料

ところ 豊橋技術科学大学 (豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1) 対象 高校生以上

申し込み 随時、申込書を豊橋技術科学大学総務課地域連携係まで
(FAX 0532-44-6509あるいは、E-mail chiren@office.tut.ac.jp)
※申込書はこのチラシの裏面及びホームページ(<http://www.tut.ac.jp/cooperation/ecourse.html>)に掲載

問い合わせ先 国立大学法人豊橋技術科学大学総務課地域連携係
Tel.0532-44-6569





国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成25年10月10日

目指せ！「食の6次産業化プロデューサー」！

このたび、豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンターが実施している農林水産省委託の「日本農業を先導する東海地域の6次産業化推進人材育成」プログラムが、内閣府の新資格制度「食の6次産業化プロデューサー」の『レベル3』に認証されました。

○「食の6次産業化プロデューサー」

「食の6次産業化プロデューサー」とは、内閣府による実践的な職業能力の評価・認定制度（キャリア段位制度）の一つであり、生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス（3次産業）の一体化や連携（6次産業化）により、地域の農林水産物を活用した加工品の開発、消費者への直接販売、レストランの展開など、食分野で新たなビジネスを創出する人のことです。

現在のキャリア段位はレベル1からレベル4までありますが、人材育成機関としては、レベル3の認証が最高位です。

認定されると、国が認定する「食の6次産業プロデューサー」として、自己の能力・スキルをPRできるほか、消費者や他の事業者からの信頼性が高まることにより「食の6次産業化」を行う上で不可欠なビジネスパートナーを見つけやすくなるなど、ビジネスの発展・拡大が期待されます。

豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンターが実施している農林水産省委託の「日本農業を先導する東海地域の6次産業化推進人材育成」プログラムでは、全65コマの講義を通して、1・2・3次産業の基本や経営・マーケティングからビジネスプランの設計までを幅広く学びます。

今年度のプログラムは、10月5日に開講式を行い、現在38名が受講しています。

修了生は、「食の6次産業化プロデューサー」として、東海地域の農業の振興や地域の活性化に大きく貢献することが期待されます。

【本件に関する連絡先】

問合せ先：先端農業・バイオリサーチセンター事務室

TEL：0532-44-6655

FAX：0532-81-5108

広報担当：総務課広報係 堤、小島 TEL 0532-44-6506

豊橋技術科学大学

日本農業を先導する

東海地域の6次産業化推進人材育成事業



- 第2期生募集 -

- ◆ 6次産業化ビジネスの“あるべき姿”を設計する
- ◆ サプライチェーンを統合して、最適システムを設計する
- ◆ ニーズ起点の戦略商品を設計する

- 募集期間: 2013.7.1 ~ 9.13 -

カリキュラム

- I 1・2・3次産業基本論
 - ・農林水産業の現状と地域産業振興
 - ・食品加工論
 - ・フードシステム論
 - ・物質・エネルギー利用型地域資源利用論
 - ・見学(豊橋技術科学大学, (株)にいみ農園, JAあぐりタウンげんきの郷) 他
- II 経営・マーケティング基本論
 - ・農業経営と企業経営
 - ・地域活性化に向けた新事業創出
 - ・食のマーケティング
 - ・商品開発実務
- III 6次産業化実践論
 - ・6次産業化の必要性と展開パターン
 - ・融合型6次産業化事例(ケーススタディ)
 - ・ケースメソッド(グループワーク)
 - ・見学(河合果樹園, (有)ジャパンフラワードリーム)
- IV 新事業創出実践論
 - ・6次産業化ビジネスの構想
 - ・商品・サービスの設計
 - ・ビジネスプラン発表会(豊橋会場・東京会場)

講師

豊橋技術科学大学特任教授 名古屋大学名誉教授 MORE経営コンサルティング(株)	三枝正彦 竹谷裕之 日野眞明 他
--	------------------------

講座日程と会場

★全65コマ(19日間)
平成25年10月5日(土) ~ 平成26年2月14日(金)
講義時間 10:00 ~ 17:10
★会場 豊橋市民センター・カリオンビル(予定)他

対象者

- 農業者
- 農業に関心を持つ企業関係者
- 支援機関、行政関係者
- 女性

受講料

無料
(交通費、昼食代等は含まれていません)

お問い合わせ

国立大学法人 豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター
愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

TEL. 0532-44-6655

E-mail: 6jisangyo@recab.tut.ac.jp URL: <http://www.recab.tut.ac.jp/contents/6sangyo/index.html>



平成25年10月10日

「異分野融合のプラットフォーム」を提供
The Irago Conference (アジア太平洋異分野融合研究国際会議 2013)
— 豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所主催 —

人口爆発や新興国の台頭に伴う環境破壊、資源や食糧を巡る争い、経済環境の大幅な変動などの問題などを抱え、世界は大きな転換点にあります。これらの問題に挑戦し、持続的社會を目指した取り組みが必要とされています。

本学エレクトロニクス先端融合研究所が主催する本国際会議は、科学者、技術者、政策立案者など、基礎科学や応用分野にわたる様々な分野の専門家が参集し、分野を越えて相互理解を醸成し、人類が直面する地球規模の問題を解決するべく議論する「異分野融合のプラットフォーム」を提供することを目的とします。加えて、次世代を担う新進気鋭の若手研究者を集めるとともに、修士課程や博士課程の学生が、世界的に著名な研究者、企業家、オピニオンリーダーと直接、議論できる場を提供します。こうした活動により、21世紀の社會が直面する問題に向けた科学・技術分野からのソリューションを発信するものです。

本年度3回目を迎えた会議では、いわゆる「死の谷」を乗り越え社會に大きな変革をもたらすイノベーションをテーマに、国内外の著名な研究者16名による招待講演と、若手研究者及び博士・修士学生の発表（口頭・ポスター）を2日間にわたって開催します。

本会議は、昨年度に引き続き愛知県田原市の伊良湖岬で開催します。今後も異分野の研究者が集うユニークな會議として、「The Irago Conference」の名称で継続的な開催を図ります。

■日 時： 平成25年10月24日（木） 13：00～19：30
25日（金） 9：00～15：00

■場 所： 伊良湖シーパーク&スパ（田原市伊良湖町宮下2822-2）

■主 催： 豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所（EIIRIS）

■後 援： 田原市、田原市低炭素施設園芸づくり協議会

■言 語： 英語（同時通訳なし）

■国際會議 URL：<http://www.iragoconference.jp/>（英語）

■国際會議の様子は「USTREAM」（ユーストリーム）でインターネット上、生中継します。

【一部の招待講演者の紹介】

□藤原 洋 (Dr. Hiroshi Fujiwara) 博士

(株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO)

デジタル IT 革命に続く第4の産業革命の鍵を握る「ビッグデータ」に注目し、産業や社会へのインパクトを予測する。(株)ブロードバンドタワーは専用型インターネット・データセンター事業およびブロードバンド配信事業に取り組む企業で、ビッグデータを新たなビジネス創出に活用するための次世代インフラの提供にも力を入れている。

- 講演題目 : Big Data Impact -Key for the 4th Industrial Revolution-
(ビッグデータのインパクト -第4次産業革命の鍵)

□澤田 和明 (Dr. Kazuaki Sawada) 博士

(豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系教授)

豊橋技術科学大学のLSI工場で開発した、イオン分布を可視化する新しいイオンイメージセンサによるエレクトロニクス分野と生物化学分野の異分野融合研究や、医療やバイオ分野のイノベーションを目指した展開を紹介する。1991年豊橋技術科学大学で工学博士の学位を取得。現在、豊橋技術科学大学ベンチャービジネスラボラトリー長を兼任。

- 講演題目 : Developments of Non Label Chemical Image Sensor For Innovative Study of Biochemical Field
(新しいノンラベル化学イメージセンサの開発と生物化学分野のイノベーションに向けた取り組み)

□ニコラス ギブソン (Mr. Nicholas Gibson) 氏

(インテレクチュアル・ベンチャーズ社国際マーケティング部ディレクター)

ベンチャー企業創業を成功に導く「知的資産の活用」について、フィンランドにおける事例を通じて紹介する。インテレクチュアル・ベンチャーズ社は世界中の発明家と提携し、イノベーションが必要な商業的および社会的に重要な分野を特定した上で、発明家はその分野で新たなアイデアを創出することを奨励し、創出されたアイデアを商業的価値のある特許に転換するための支援を提供している。

- 講演題目 : Start-ups, Venture Companies, Small Companies, and Invention Capital
(ベンチャー企業を成功に導く知的資産の活用および中小企業の連携)

□チャンドラム シヴァジ (Dr. Chadaram Sivaji) 博士

(インド大使館 在日インド大使館科学技術参事官)

工学や医学分野で目覚ましい発展を遂げているインドの研究開発の取り組みや教育体系について紹介する。インドにおける省庁や組織による様々な支援体制の整備は、科学技術の研究開発を進化させるとともに、インドの国際的な存在を大きなものにしており、その取り組みを議論する。

- 講演題目 : Recent trends in Science and Technology in India
(インドの科学技術分野における取り組み)

【プログラム】（招待講演のみ抜粋）

※招待講演者、詳細なプログラム等については、次の URL よりご確認ください。

<http://www.iragoconference.jp/>（英語）

1日目：10月24日（木）

13:00	開会
13:15	招待講演 藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）
13:45	招待講演 澤田 和明（豊橋技術科学大学 教授）
14:30	招待講演 佐々木 進（宇宙航空研究開発機構 名誉教授）
15:00	招待講演 宇沢 達（名古屋大学 教授）
15:45	招待講演 S. Ramaswamy（インド・国立生物科学研究センター 教授）
16:15	招待講演 落谷 孝弘（独立行政法人 国立がん研究センター研究所 分野長）
16:45	招待講演 奥村 元（独立行政法人 産業技術総合研究所 センター長）
17:30	招待講演 Kwang Sun Kim（韓国・韓国技術教育大学校 教授）
18:00	招待講演 Eun Kyu Lee（韓国・韓国研究財団 教授）
18:30	招待講演 Chadaram Sivaji（インド大使館 在日インド大使館科学技術参事官）
19:00	招待講演 Nicholas Gibson（インテレクチュアル・ベンチャーズ社 ディレクター）

2日目：10月25日（金）

9:00	招待講演 Tianna Hicklin（米国・サイエンス AAAS アシスタントエディター）
9:30	招待講演 中村 優文（トムソンロイター社）
10:00	招待講演 谷藤 幹子（独立行政法人 物質・材料研究機構 室長）
10:45	一般講演
11:30	招待講演 鈴木 公明（東京理科大学 教授）
12:00	学生セッション
13:00	ポスターセッション
14:30	招待講演 湯元 昇（独立行政法人 産業技術総合研究所 理事）

本件に関する連絡先

エレクトロニクス先端融合研究所（担当：岡田・橋詰・小林・小玉）

TEL：0532-81-5133 もしくは 0532-44-6574

FAX：0532-81-5133 E-mail：secretariat@iragoconference.jp

広報担当：総務課広報係（堤・小島）TEL 0532-44-6506



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成25年10月10日

ASEANの大学の産学連携強化を通じ 地域の経済成長持続と産業強化を支援

ーJICA技術協力プロジェクト

「アセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net) フェーズ3」
国別技術研修「産学連携促進手法研修」コースを受託実施ー

豊橋技術科学大学は、国際協力センター (ICCEED) が中心となり、独立行政法人国際協力機構 (JICA) の技術協力プロジェクト「アセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net) フェーズ3」における国別技術研修「産学連携促進手法研修」コースを受託・実施します。

今回は、特に経済成長著しく産業も発展している“先発 ASEAN” と称されるインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイの4ヶ国から10大学10名が参加します。

研修日程：平成25年11月4日 (月) ~ 16日 (土)

(詳細は別紙日程表参照)

実施場所：豊橋技術科学大学 他

研修内容：豊橋技術科学大学産学連携推進本部や産学連携による共同研究プロジェクトを多く抱える研究室・研究センターに加え、共同研究の連携先の企業関係者からの意見聴取や地域で産学官連携を進める(株)サイエンス・クリエイトの取り組み事例の視察見学研修などを実施予定

※研修期間中の11月14日 (木) には ICCEED オープンフォーラムとして、ASEAN 地域に事業展開する企業の皆さんが、展開先の大学と連携することによってより大きな事業成果を得ることが出来ないか、企業、大学、お互いのアイデアや情報を交換・共有できる場を持ち (会場は名古屋市中村区の JICA 中部国際センター)、ASEAN 地域に事業展開する日本の企業と ASEAN 各国の大学との連携形成を後押しできればと計画しています。

我が国は1997年のアジア通貨危機に際する支援を契機として、ASEAN各国の産業力を強化するために各国の工科系大学の教育・研究機能を高めることを目的とした技術協力を、JICAを通じて行ってきており、本学も当初から支援・協力を行ってきました。

この技術協力プロジェクトでは、協力1期 (フェーズ1)、2期 (フェーズ2) の10年間を通じて本学の多くの教員が、対象となっているASEAN各国の大学に出かけて指導を行い、また対象大学の若手教員の本学留学を受け入れ、これまでに11名が本学より博士号学位を取得して各国の大学で教鞭をとっており、現在も3名が本学博士後期課程に在学しています。

こうした協力を通じて実力を高めてきた各大学の教育と研究の機能を、より直接にASEAN地域の経済・産業に活かしていくことが、2013年3月から始まっている協力第3期 (フェーズ3) において求められています。

本学では、積極的に推進し実績を上げてきている産学連携の経験とノウハウを活かし、SEED-Net 対象大学の産学連携促進担当教員を本学に招き、本学の産学連携の取り組みや実施体制、共同研究の実例などを実際に学んでもらい、各大学の産学連携の促進のための取り組みの拡充に活かしてもらおうことを企画しています。

本学はこれまでに ASEAN 地域の多くの工科系大学と連携・交流関係を築いてきていますが、この研修コースを受託・実施することにより一層強い交流関係の構築につながることを期待されます。そうした多くの大学と交流関係を築くことは、今般スタートさせた長岡技術科学大学や高等専門学校機構と連携・協働してマレーシアに設置する海外教育拠点を活用した教育のグローバル化改革事業においても有効に活用できる連携ネットワークへとつなげることも期待されます。

本件に関する連絡先

担当者 : 国際協力センター (ICCEED) 事務室 TEL : 0532-44-6938

広報担当 : 総務課広報係 堤・小島 TEL : 0532-44-6506

別紙

JICA アセアン工学系高等教育ネットワーク(AUN/SEED-Net) Phase 3
産学連携促進手法研修(JICA 国別研修)

日程案 (11月4日～16日)

月日		スケジュール		場所
4	(月)		来日	
5	(火)	AM	ブリーフィング	JICA 中部
		PM	豊橋技術科学大学 ICCEED へ移動 コースオリエンテーション	9階セミナー室
6	(水)	AM	参加者各大学の産学連携状況紹介 (学内公開)	
		PM	参加者各大学の産学連携状況紹介 (学内公開)	
			TUT 学長表敬 (16:00)	
7	(木)	AM	TUT の産学連携(基本方針、実施体制等)	産学連携推進本部
		PM		
8	(金)	AM	産学連携事例 1 研究室紹介 (予定: 田中三郎研究室)	
		PM	産学連携事例 1 企業訪問	
9	(土)		休	
10	(日)		休	
11	(月)	AM	産学連携事例 2 研究室紹介 (予定: 人間・ロボット共生リサーチセンター)	
		PM	産学連携事例 2 企業訪問	
12	(火)	AM	産学官地域産業育成のための産学官地域連携事例	サイエンス・クリエイト
		PM		
13	(水)	AM	参加者各大学の取り組みについて発表・意見交換会 (学内公開)	9階セミナー室
		PM	参加者各大学の取り組みについて発表・意見交換会 (学内公開)	
			名古屋へ移動	
14	(木)	AM	ICCEED オープンフォーラム準備	JICA 中部
		PM	ICCEED オープンフォーラム参加	
15	(金)	AM	評価会	JICA 中部
		PM	ポートメッセ名古屋見学	
16	(土)		帰国	



国立大学法人豊橋技術科学大学 *Press Release*

平成25年10月10日

アジアに事業展開する企業とASEANの大学との連携の可能性を求めて

ー豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構 国際協力センター (ICCEED)
第12回オープンフォーラムを11月に名古屋で開催ー

日時 : 平成25年11月14日(木) 13:30~18:00
場所 : 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 中部国際センター
(名古屋市中村区平池町4丁目60-7)
テーマ : アジアでの事業活動をより強固に展開するために
ーASEANの工科系大学との連携・活用を考えるー
参加費 : 無料
プログラム : 別紙または下記 URL をご参照ください。(日英同時通訳あり)
<http://icceed.tut.ac.jp/forum12.php>
問い合わせ : 豊橋技術科学大学国際協力センター (ICCEED)
TEL : 0532-44-6938
*参加希望の方は、氏名(フリガナ)、所属、連絡先を明記の上、ハガキ、E-Mail
またはFaxにてお申し込みください。
E-Mail : master@icceed.tut.ac.jp FAX : 0532-44-6935

第12回目となる今回は、ASEAN地域に事業展開する企業の皆さんが、展開先の大学と連携することによってより大きな事業成果を得ることが出来ないか、企業、大学、お互いのアイデアや情報を交換・共有できる場を提供します。

近年の経済成長著しいASEAN地域は、マーケットとしての魅力にあふれ、ASEANの成長のダイナミズムをいかに取り込むかが、我が国政府の“成長戦略”にとっても重要な課題になっています。

民間企業のこの地域への事業展開意欲も高まりを見せていますが、展開先でより大きなマーケットシェアを得るためには、より展開先のニーズにマッチし、使用環境により適った製品や技術・サービスをいかに提供できるかが鍵の一つとなるのではないのでしょうか。

我が国は1997年のアジア通貨危機に際する支援を契機として、ASEAN各国の産業力を強化するために各国の工科系大学の教育・研究機能を高めることを目的とした技術協力を、JICAを通じて行っており、本学も当初から支援・協力を行ってきました。

この「ASEAN工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net)」プロジェクトを通して強化されてきた、特に“先発ASEAN”と称されるインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ各国を代表する工科系大学の産学連携促進担当教員をJICAとともに招く機会に、各国における工学教育や大学の研究開発の状況に加えて産学連携の実施体制などをご紹介・ご案内する機会とします。

併せて、ASEAN地域へ事業展開する企業の皆さんからも、大学に期待するもの、求めるもの、活用したいもの、連携するにあたっての要望・注文などを忌憚なくご指摘いただき、今後のASEANにおける産学連携促進に弾みをつけ、市場から歓迎される製品や技術・サービスの開発につながる事が出来れば幸いです。

本年は我が国がASEANと交流を開始してから40周年にあたります。そのASEANは、2015年の市場統合と経済共同体化により国際経済における重要度が一層増すと思われます。また、本学は長岡技術科学大学や国立高等専門学校機構と連携・協働して、マレーシアに設置する海外教育拠点を活用した教育のグローバル化改革事業もスタートさせました。こうした機会に、本学がこれまで築いてきたアジアの国々の工科系大学との連携関係を活かして、ASEAN地域に事業展開しようとする企業の皆さまとの連携関係も大切にしていきたいと考えています。

多くの皆様の奮ってのご参加を期待いたします。

本件に関する連絡先

担当者：国際協力センター（ICCEED）事務室 TEL：0532-44-6938

広報担当：総務課広報係 堤・小島 TEL：0532-44-6506

豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構国際協力センター(IGCEED)
第12回オープンフォーラム プログラム

テーマ： アジアでの事業活動をより強固に展開するために
 - ASEANの工科系大学との連携・活用を考える -

日時：平成25年11月14日(木) 13:30~18:00 ※受付13:00~

開催場所：独立行政法人国際協力機構(JICA)中部国際センター(名古屋市中村区平池町4丁目60-7)

主催：豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構国際協力センター(IGCEED)
 共催：独立行政法人国際協力機構(JICA)
 後援：文部科学省 外務省 愛知県 一般社団法人中部経済連合会 名古屋商工会議所
 公益社団法人あいち産業振興機構 日本貿易振興機構(ジェトロ)名古屋貿易情報センター

時間	プログラム
13:30-13:35	開会の辞 神野 清勝 豊橋技術科学大学(理事・副学長)
13:35-13:40	共催者挨拶 鈴木 康次郎 独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター 所長
第1部	
13:40-14:05	講演1 ASEANの工科系大学の教育・研究の強化と域内産業の振興 -AUN/SEED-Net プロジェクトが目指すもの(産学連携の促進を通じて)- 講師：独立行政法人国際協力機構 人間開発部 派遣専門家(SEED-Net 事務局 産学連携促進担当) 小林 徳光氏
14:05-14:30	講演2 工科系大学の教育・研究水準と産学連携の事例と可能性の展望 -インドネシアの事例- 講師：ガジャマダ大学工学部 副学部長(研究・地域連携担当) Dr. Lukito Edi Nugroho
14:30-14:55	講演3 工科系大学の教育・研究水準と産学連携の事例と可能性の展望 -マレーシアの事例- 講師：マレーシア工科大学マレーシア日本国際工学院 MOT技術経営学科長 Prof. Dr. Noon bin Abu Bakar
14:55-15:05	休憩
15:05-15:30	講演4 工科系大学の教育・研究水準と産学連携の事例と可能性の展望 -フィリピンの事例- 講師：フィリピン大学産学官連携センター 副センター長 Dr. Rhodora Medina Gonzalez
15:30-15:55	講演5 工科系大学の教育・研究水準と産学連携の事例と可能性の展望 -タイの事例- 講師：チュラロンコン大学工学部電気工学科 副国際部長 Dr. Supavadee Aramvith
15:55-16:20	講演6 インドネシアへの事業展開 -スラバヤ工科大学(ITS)との連携の経験から- 講師：P. T. SAUARE ENIX SMILEWORKS 代表取締役/CEO 金丸 洋明氏
16:20-16:55	質疑応答
16:55-17:00	議論まとめ 穂積 直裕 豊橋技術科学大学国際協力センター長
第2部	
17:00-18:00	情報交換会

豊橋技術科学大学 グローバル工学教育推進機構 国際協力センター (ICCEED)

第12回 オープンフォーラム

アジアでの事業活動をより強固に展開するために

—ASEANの工科系大学との連携・活用を考える—

日時：2013年11月14日(木) 13:30～18:00 (開場 13:00)

場所：JICA中部国際センター ※名古屋駅から徒歩13分 ささしまライブ駅から徒歩5分

(〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7 http://www.jica.go.jp/chubu/office/access_map.html)

主催：豊橋技術科学大学グローバル工学教育推進機構国際協力センター(ICCEED) 共催：独立行政法人国際協力機構(JICA)

後援：文部科学省 外務省 愛知県 一般社団法人中部経済連合会 名古屋商工会議所

公益財団法人あいち産業振興機構 日本貿易振興機構(ジェトロ) 名古屋貿易情報センター

魅力あるASEANの市場。域内人口6億人、GDP成長率は毎年6～8%、2015年には経済統合し経済共同体が生まれる地へ、世界の企業はこぞって投資、事業展開を進めています。過激な円高や少子化などによる国内市場の縮小といった経営環境の変化に曝される日本の企業にとっても他人ごとではありません。今やASEANの成長を取り込まないと日本の成長も見込めないとされるほどです。

ASEANに展開する事業を成功させるには、域内市場で受け入れられてシェアを上げなければなりません。域内の環境や条件や市場の嗜好によりマッチした製品やサービスの開発に、現地の大学が持つ研究機能や開発力をもっと活用できないのか、連携を進めることはできないのでしょうか? JICAが進めてきた「アセアン工学系高等教育ネットワーク(AUN/SEED-Net)」プロジェクトで、ASEAN各国の有力工科系大学の教育・研究の水準は随分と向上しているはずで

そこで豊橋技術科学大学では、SEED-Net メンバー大学の産学連携推進を担当する教員を招き、本学の産学連携事例を中心に、今後一層の産学連携の促進に向けた方策を議論する研修機会を持つことになりました。そしてこの機会に、ASEAN地域に事業展開する日本の企業関係者にASEAN地域の工科系大学の教育・研究の水準を紹介し、大学関係者と今後の産学連携の可能性を展望するフォーラムを開催します。ASEAN地域での持続的な事業の展開を戦略的に進めて行こうと奮闘されている企業の皆様のご参加をお待ちしています。

【プログラム】

—第1部— 講演

ASEANの工科系大学の教育・研究の強化と域内産業の振興

—AUN/SEED-Net プロジェクトが目指すもの(産学連携の促進を通じて)—

独立行政法人国際協力機構(JICA) 人間開発部

派遣専門家(SEED-Net 事務局 産学連携促進担当) 小林 徳光 氏

工科系大学の教育・研究水準と産学連携の事例と可能性の展望

—インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ各国の事例—

・ガジャマダ大学工学部 副学部長(研究・地域連携担当) Dr. Lukito Edi Nugroho

・マレーシア工科大学マレーシア日本国際工学院 MOT 技術経営学科長 Prof. Dr. Noon bin Abu Bakar

・フィリピン大学産学官連携センター 副センター長 Dr. Rhodora Medina Gonzalez

・チュラロンコン大学工学部電気工学科 副国際部長 Dr. Supavadee Aramvith

インドネシアへの事業展開 —スラバヤ工科大学(ITS)との連携の経験から—

P.T.SQUARE ENIX SMILEWORKS 代表取締役/COE 金丸 洋明 氏

—第2部— 情報交換会

・インドネシア、フィリピン、マレーシア、タイ各国の有力工科系大学より10名の産学連携担当教員とAUN/SEED-Net事務局の担当者が参加します。

各大学の研究者ダイレクターなどもご覧頂けます。

・ベトナム、ミャンマー、インド、ケニア、チュニジア、ブラジル、メキシコ、カザフスタン、イランから地域振興担当者(知的クラスター形成による地域イノベーション創出)12名も参加予定です。

【お申し込み】

参加ご希望の方は、氏名(フリガナ)・所属・連絡先を明記し、E-mail または Fax にて、下記宛までお申し込みください。

〒441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 豊橋技術科学大学 国際協力センター (ICCEED)

TEL: 0532-44-6938 FAX: 0532-44-6935 E-mail: master@icceed.tut.ac.jp

URL: <http://icceed.tut.ac.jp/forum12.php>

※やむを得ない事情によりプログラムに変更が生じる場合がございます。最新の情報は上記 URL にてご確認ください。

日英同時通訳

参加費：無料



文部科学省特別経費

サステナブルな社会における未来ビークルシティ事業

～低炭素社会における安全安心なビークルシティ～

未来ビークルシティリサーチセンター講演会

サステナブルな社会における 未来ビークルシティ事業

本センターは、現在進められている車を中心とした次世代自動車の開発という観点とは異なり、

今までの自動車を中心(ハード)とする街づくりから弱者や歩行者の視線に重きを置いた

(ソフト)未来の自動車街(未来ビークルシティ)を目指しています。

そのため、持続的に発展可能な「低炭素社会」や「安全・安心社会」と言う2つの目標を掲げています。

その中でも、本地域の利点である三河港を念頭に置く電気自動車社会の構築です。

低炭素社会では電気自動車が重要な役割を果たしますが、電気自動車の弱点は、

電池の能力と充電に関する問題であり、それが長距離移動の難しさを浮き彫りにしています。

それらの技術的な克服と三河港利用による街づくりを通じた電気自動車社会の構築を目指しています。

今回は、本センターの研究課題の中で、新しい給電方式による電気自動車、

経済効果、電池技術の3分野について紹介したいと思います。

講演者

豊橋技術科学大学

電気・電子情報工学系 教授 大平 孝

豊橋技術科学大学

建築・都市システム学系 准教授 渋澤 博幸

豊橋技術科学大学

電気・電子情報工学系 教授 櫻井 庸司

平成25年11月7日(木)

時間 18:00～20:00

場所 田原文化会館 多目的ホール
(田原市田原町汐見5番地)**参加費無料**

■お申し込み・お問い合わせ

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター(研究協力課)

TEL:0532-44-6574 FAX:0532-44-6568

E-mail:rcfvc@office.tut.ac.jp



国立大学法人

豊橋技術科学大学



プログラム

18:00~18:05 開会挨拶

豊橋技術科学大学 副学長
未来ビークルシティリサーチセンター長 角田 範義

18:05~18:50 講演 1

「未来の電気自動車」

豊橋技術科学大学
電気・電子情報工学系 教授 大平 孝

18:50~19:00 休憩

19:00~19:30 講演 2

「未来ビークルと港湾の地域経済への影響」

豊橋技術科学大学
建築・都市システム学系 准教授 渋澤 博幸

19:30~20:00 講演 3

「リチウムイオン電池の現状と課題」

豊橋技術科学大学
電気・電子情報工学系 教授 櫻井 庸司

■お申し込み・お問い合わせ

豊橋技術科学大学 未来ビークルシティリサーチセンター(研究協力課)

TEL:0532-44-6574 FAX:0532-44-6568

E-mail:rcfvc@office.tut.ac.jp

参加申込書 以下の内容をFAXまたはE-mailでご連絡ください。

申込先

未来ビークルシティリサーチセンター(研究協力課研究センター係)

FAX:0532-44-6568 E-mail:rcfvc@office.tut.ac.jp

お名前			
所属・役職			
TEL		FAX	
E-mail			

*参加申込メ切:平成25年10月31日(木)

平成25年度 定例記者会見日程予定

- 第1回 平成25年 4月17日(水) 11:00～
- 第2回 平成25年 5月22日(水) 11:00～
- 第3回 平成25年 6月20日(木) 11:00～
- 第4回 平成25年 8月 7日(水) 11:00～
- 第5回 平成25年 9月18日(水) 11:00～
- 第6回 平成25年10月16日(水) 11:00～
- 第7回 平成25年11月20日(水) 11:00～
- 第8回 平成25年12月18日(水) 11:00～
- 第9回 平成26年 1月22日(水) 11:00～
- 第10回 平成26年 2月19日(水) 11:00～
- 第11回 平成26年 3月19日(水) 11:00～

場所はすべて本学大会議室（事務局3階）を予定しています。場所、日程は現時点での予定であり、都合によって変更の場合があります。定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以上